

本校ホームページをご覧いただいている都民の皆さんへ



校長 相葉 玲

《表明します》

これまでホームページ等で繰り返しご紹介しているとおり、本校は防災教育のトップランナーを自負しています。平成24年には都立高校で初めて、一学年の生徒全員に上級救命救急講習を受講させました。以来、年度を重ね、昨年度からは在籍するほとんど全ての生徒が受講修了証を持つという状況をつくりました。また、毎年度、多摩川で行われる水防訓練には一学年が参加し、調布市防災教育の日には地域の小学校に防災活動支援隊（生徒の組織）が協力者として出向いています。これに加え、毎年11月には独自の避難所開設および運営訓練を地域の方を招いて開催しており、地域での認知度も高まって、期待も寄せられています。

トップランナーであることを支えているのは、本校教職員の熱意と努力であるのは言うまでもありません。事実、本校教職員は5割以上が上級救命講習を受講し、応急手当普及員の資格を持つ者も4名います。平成25年度に都立高校で初めてとなる応急手当奨励教育機関の認定も受けて以来、教職員の受講修了者を増やし続けて認定を維持しています。とはいっても、本校が単独でできるものではありません。今年度はこれまでの成果が評価されて、都教委から生徒の受講料を支援して貰いましたし、教員の受講料や資格取得にも自律経営予算を充てています。こうした都費の支出だけでなく、調布消防署ならびに調布市役所の防災課からは、訓練の際に必要な教材や物資の提供から講師の派遣に至るまで、とても多くの支援を受けています。各方面の理解と協力には深く感謝するものです。

現在、本校には生徒教職員合せて700名を超える上級救命講習の受講修了者がいて、AEDも2器設置されています。こうした中、消防からの示唆もあって、本校が蓄積した力を積極的に地域に還元することとしました。というのも、本校も都立の施設のひとつであり、私たちが公務員で全体の奉仕者としての使命を持つという事実からです。つまり、地域の皆さんがお困りのときには、私たち教職員が手を差し伸べるということです。これは、即ち、本校の防災教育の根幹に据えた『いざというときに、高校生は手を差し伸べる側である』ことを、教職員が生徒に率先垂範することにもなるのです。

もちろん、お役にたてるのも限定された地域と時間帯になってしまいます。それでも、万一、本校の近くで身体に何らかの不調を感じたら、あるいはそうした人を見かけたら、迷わず本校に飛び込んでください。きっとお力になれます。これまでもそのつもりでいましたが、今回、はっきりと表明します。われわれのような公的な施設や機関のそれぞれが狭い範囲でもカバーすれば、全都を網羅できるはずで、今回の表明も、防災教育のトップランナーとしての役割のひとつと思っています。